

# Microsoft® Windows Vista™ Business

## インストール補足説明書 for Express5800/56Xd

## はじめに

本手順書は、Express5800シリーズ「Express5800/56Xd」で使用するオペレーティングシステム「Microsoft® Windows Vista™ Business 日本語版」（以降、「Windows Vista」と呼ぶ）をインストールする方法について記述しています。

### <Microsoft® Windows Vista™ Business 日本語版>

- Microsoft® Windows Vista™ Business 64-bit(x64) Edition
- Microsoft® Windows Vista™ Business 32-bit(x86) Edition

**Windows Vista をインストールする前に、必ず最後までお読みください。**

#### **重要**

Windows Vista for Express5800/56Xd 対応 NEC 差分モジュールは、Express5800/56Xd 対応の専用モジュールです。他の装置ではご使用できません。

#### ● **Windows Vista へのアップグレードについて**

##### **Windows XP から Windows Vista へのインプレースアップグレードは推奨しません。**

Windows Vista をご使用になる場合は「Windows Vista のインストール」(本書)を参照し、事前に必要なユーザデータのバックアップを取り、Windows Vista をインストールしなおしてください。

また、Windows Vista 32-bit(x86) Edition から Windows Vista 64-bit(x64) Edition や Windows Vista 64-bit(x64) Edition から Windows Vista 32-bit(x86) Edition のインプレースアップグレードはできません。

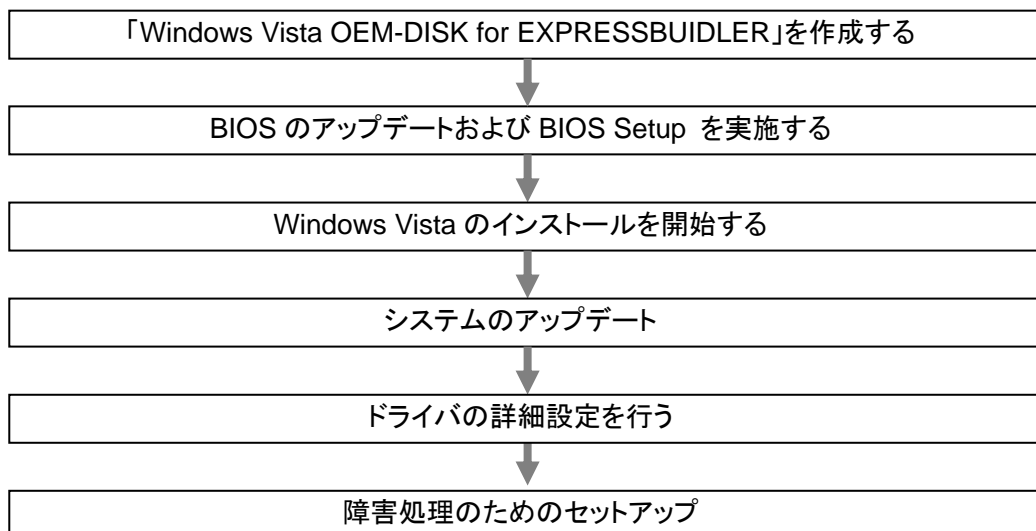
#### **ヒント**

インプレースアップグレードとは、既にインストールされている Windows XP 自身を Windows Vista へ上書きアップグレードすることです。

## Windows Vista インストール手順概略

Windows Vista のインストール方法概略図を以下に示します。

必ず**新規インストール**を実施してください。



## Windows Vista をインストールするための準備

### ■ インストールに必要なもの

Windows Vista インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows Vista for Express5800/56Xd 対応 NEC 差分モジュール**  
(以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ)

『NEC8番街』 <http://nec8.com> →

[サポート情報] → 製品別[ワークステーション] → ダウンロード・マニュアル  
[OS 対応状況] を参照し、入手してください。

- **Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**  
(または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚)  
作成方法は“「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成”(本書)を参照してください。
- **Microsoft® Windows Vista™ Business インストール補足説明書 for Express5800/56Xd (本書)**
- **Microsoft 社製 OS インストールメディア**  
※別途ご購入が必要です。(以降、「Windows Vista DVD-ROM」と呼ぶ)
- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
  - － **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
  - － **ユーザーズガイド**  
(EXPRESSBUILDER CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください)

### ■ NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ次の手順で Express5800/56Xd 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/56Xd 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

『NEC8番街』 <http://nec8.com> →

[サポート情報] → 製品別[ワークステーション] →  
ダウンロード・マニュアル[OS 対応状況] を参照し、入手してください。

- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。  
(例:C:¥TEMP)

**チェック** ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

## ■ 「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。以下の手順にしたがって作成してください。

**ヒント** この装置用の「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成済みの場合は再度、作成する必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意する。
- (2) オペレーティングシステムを起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。  
(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全てのファイルをセットしたフロッピーディスクにコピーしてください。

**<Windows Vista 64-bit(x64) Edition の場合>**

〈展開先フォルダ名〉¥WINNT¥OEMFD¥VISTAX64¥FD1

**<Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合>**

〈展開先フォルダ名〉¥WINNT¥OEMFD¥VISTA¥FD1

コピー終了後、

「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成は完了です。

作成した「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

## ■ RAID ドライブの作成

オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、インストール前に RAID ドライブを作成してください。RAID ドライブの作成方法については、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

## 注意事項

Windows Vista をインストールする前に注意事項をよく読んでください。

### ■ ライセンス認証の手続きについて

Windows Vistaのライセンス認証を行う際に使用するプロダクトキーは、COAラベルに記載されたプロダクトIDと一致させる必要があります。

詳細は「ライセンス認証の手続き」(本書)を参照し確認してください。

- 重要**
- インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
  - COA ラベルは本体に貼り付けられている場合もあります。

### ■ NEC差分モジュールがサポートしているオプションボード

NEC差分モジュールでサポートしているオプションボードは、以下になります。

#### <SASモデル>

- NEC差分モジュールにてOSのインストールをサポートしているボードなし
- その他のオプション
  - － N8103-95 SCSIコントローラ

#### <SATAモデル>

- NEC差分モジュールにてOSのインストールをサポートしているボード
  - － N8103-101 ディスクアレイコントローラ(SATA II)
  - － N8103-103 ディスクアレイコントローラ(SATA II)
- その他のオプション
  - － N8103-95 SCSIコントローラ

### ■ システムのアップデートについて

システムのアップデートはExpress5800 シリーズに必要なドライバを適用します。必ずNEC差分モジュールを使って、システムをアップデートしてください。

### ■ ディスク構成について

ディスク領域に、「EISA 構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



## ■ MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。  
ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

## ■ DAT等のメディアについて

セットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

## ■ BIOSのアップデート

Windows Vista をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows Vista 用のBIOSのアップデートが必要な場合があります。  
BIOSが必要かどうかは、『NEC8番街』 <http://nec8.com> → [サポート情報] → 製品別 [ワークステーション] → ダウンロード・マニュアル[OS対応状況] を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。  
また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOSダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

## ■ 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

### <Windows Vista 64-bit (x64) Edition の場合>

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ  
+ ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 12,200MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 300MB
ハイバネーション用サイズ	= 搭載メモリサイズ
アプリケーションサイズ	= 任意

### 重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。  
ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み(メモリダンプ種別)に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ+300MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

12,200MB + (512MB × 1.5) + 512MB + 300MB + 512MB +  
アプリケーションサイズ = 14,292MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 本書の「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

#### <Windows Vista 32-bit (x86) Edition の場合>

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	=	6,200MB
ページングファイルサイズ(推奨)	=	搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	=	搭載メモリサイズ + 300MB
ハイバネーション用サイズ	=	搭載メモリサイズ
アプリケーションサイズ	=	任意

#### 重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。  
ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1 つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で 4095MB です。搭載メモリサイズ × 1.5 倍のサイズが 4095MB を超える場合は、4095MB で設定してください。
- 搭載メモリサイズが 2GB 以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB + 300MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが 512MB の場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

6,200MB + (512MB × 1.5) + 512MB + 300MB + 512MB +  
アプリケーションサイズ = 8,292MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当

てることによって解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 本書の「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。



# 1 Windows Vista のインストール

ここでは、Windows Vista の新規インストール方法について説明します。

1. システムの電源を ON にする。

**重要** Windows Vista 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS が必要かどうかは、『NEC8番街』<http://nec8.com> → [サポート情報] → 製品別[ワークステーション] → ダウンロード・マニュアル [OS 対応状況] を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST (Power On Self-Test) の実行内容が表示されます。  
(「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。)  
しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

**Press <F2> to enter SETUP**

2. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Exit Saving Changes」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. 本体の光ディスクドライブに Windows Vista DVD-ROM をセットする。
5. システムを再起動する。  
<Ctrl>+<Alt>+<Del>キーを押すか、電源を OFF/ON し再起動してください。

**重要** ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。

DVD-ROM からシステムが起動します。

Windows のインストール画面が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

6. [Windows のインストール]画面が表示されたら、言語とその他の項目を入力してから [次へ]をクリックする。
  - (1) [今すぐインストール]と表示されるので、クリックする。  
次に、Windows のインストールに必要な情報を収集します。
  - (2) [ライセンス認証のためのプロダクトキーの入力]画面で、プロダクトキーを入力し [次へ]をクリックする。
7. [ライセンス条項をお読みください。] 画面で、条項の内容を確認する。  
同意する場合は、[条項に同意します]にチェックを入れ[次へ]をクリックします。
8. [インストールの種類]画面で、インストールの種類を選択する。  
ここでは、[カスタム(詳細)]をクリックします。

9. [Windows のインストール場所を選択してください] 画面で、インストール場所を選択する。

〈本体の起動用ハードディスクドライブをディスクアレイコントローラに接続している場合〉

: 手順 10 へ

〈本体の起動用ハードディスクドライブをディスクアレイコントローラに接続していない場合〉

: 手順 15 へ

10. [ドライバの読み込み]をクリックする。

11. 次のメッセージが表示されるので、「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブにセットし[参照]をクリックする。

ドライバの読み込み  
ハードドライブへのアクセスに必要なデバイス ドライバをインストールするには、ドライバファイルが含まれているメディアを挿入してから、[OK]をクリックしてください。

注: インストールメディアは、フロッピーディスク、CD、DVD、または USB フラッシュ ドライブです。  
[ 参照(B) ] [ OK ] [ キャンセル ]

12. 参照先にフロッピーディスクドライブ(フロッピーディスクドライブのドライブレター:)を指定し、[OK]をクリックする。

13. 必要なドライバを選択し[次へ]をクリックする。

- N8103-101 の場合

「Promise SuperTrak EX (tm) Series Controller  
(〈フロッピーディスクドライブのドライブレター〉: ¥ST8350.INF)」

- N8103-103 の場合

「Promise SuperTrak EX (tm) Series Controller  
(〈フロッピーディスクドライブのドライブレター〉: ¥ST8350.INF)」

14. 「Windows Vista OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をフロッピーディスクドライブから取り出し、[ドライブオプション(詳細)]-[新規]をクリックする。

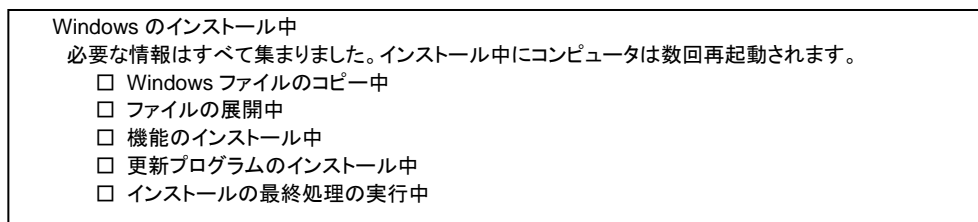
**ヒント** 既にパーティションを作成している場合は、インストールするパーティションを選択し、手順 16 へ進んでください。

15. インストールするパーティションサイズを指定し[適用]をクリックする。

**ヒント** ディスクのフォーマットをする場合は、[フォーマット]をクリックする。メッセージの内容を確認しフォーマットしてください。

16. [Windows のインストール場所を選択してください] 画面で、作成したパーティションを選択し [次へ] をクリックする。

次のメッセージが表示され、Windows のインストールが開始します。



17. Windows のインストール後、Windows のセットアップを開始する。

画面の指示に従って必要な設定や表示内容を確認し[次へ]をクリックし進めてください。

- ユーザー名・パスワードを入力する。
- コンピュータ名を入力する。
- Windows を自動的に保護するよう設定する。
- 時間と日付の設定の確認をする。
- 本装置の現在の場所を選択する画面が表示される場合があります。適切な場所を選択してください。

18. 「ありがとうございます」のメッセージが表示されるので [開始]をクリックする。

Windows Vista 画面が表示されます。  
パスワードを入力し、システムにログオンします。

光ディスクドライブから、Windows Vista DVD-ROM を取り出してください。

19. システムのアップデートを参照してシステムのアップデートを行う。

20. ドライバのインストールと詳細設定を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。

## 2 システムのアップデート

Windows Vista のインストール後、必ず以下の手順でシステムのアップデートを行ってください。システムのアップデートは Express5800 シリーズに必要なドライバを適用します。NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows Vista をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダウンロードしてください。

**重要** 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。）
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
- 本装置の BIOS セットアップユーティリティを使って「Hyper-Threading Technology」の設定を変更した場合（プロセッサに関する設定項目です。）

1. スタートメニューから[コントロールパネル]—[ユーザーアカウント]をクリックする。



2. [ユーザーアカウント]をクリックする。



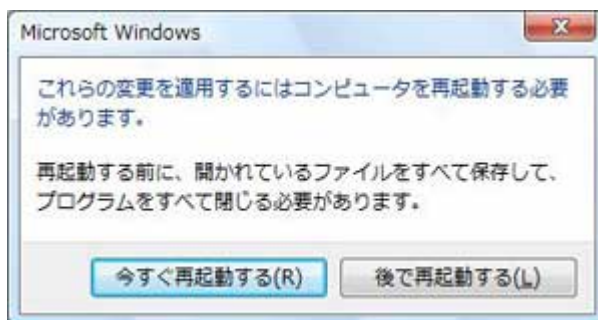
3. 次の画面が表示されるので、[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]をクリックする。



4. [ユーザーアカウント制御]画面の内容を確認し、[続行]をクリックする。
5. 次の画面で、[ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる]のチェックをはずし[OK]をクリックする。



6. [今すぐ再起動する]をクリックし、システムを再起動する。



7. システムにログオン後、以下を実行するとセットアップメッセージが表示されます。

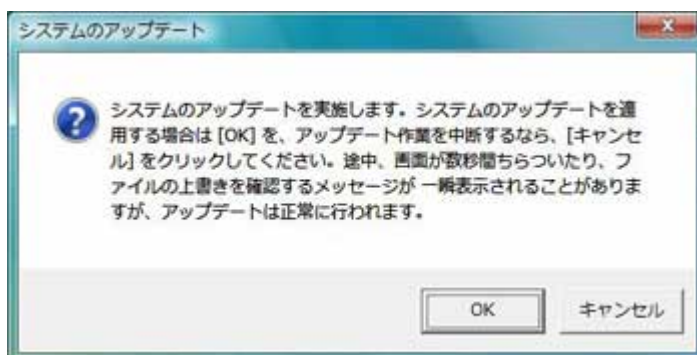
**Windows Vista 64-bit(x64) Edition**

<展開先フォルダ名>%WINNT%\VISTAX64\UPDATE.VBS

**Windows Vista 32-bit(x86) Edition**

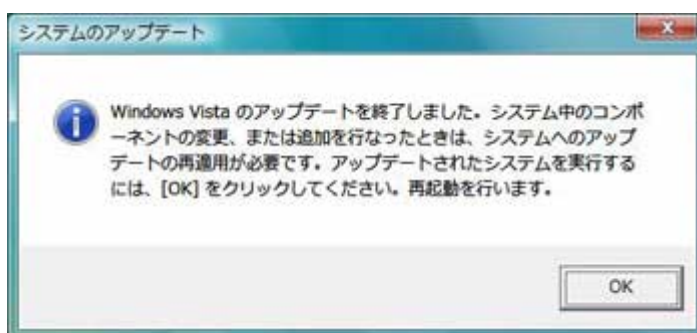
<展開先フォルダ名>%WINNT%\VISTA\UPDATE.VBS

- メッセージの内容を確認し、[OK]をクリックする。



システムのアップデートが開始します。

- 次のメッセージが表示されたら、システムのアップデートは終了なので[OK]をクリックする。



システムが再起動し、Windows Vista 画面が表示されます。

- パスワードを入力し、システムにログオンする。
- スタートメニューから[コントロールパネル]–[ユーザーアカウント]をクリックする。



12. [ユーザーアカウント]をクリックする。



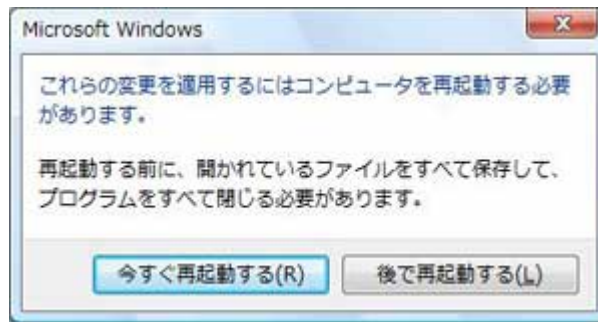
13. 次の画面が表示されるので、[ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]をクリックする。



14. 次の画面で、[ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる]のチェックを入れ[OK]をクリックする。



15. [今すぐ再起動する]をクリックし、システムを再起動する。



以上でシステムのアップデートは完了です。



## 3 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。  
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

### ■ ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)] のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレスの設定を行ってください。

**ヒント** サービスの追加で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。  
[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザーズガイドを参照してください。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

#### <オプションのネットワークドライバの設定手順>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. ネットワークアダプタの(Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Acceleration)をダブルクリックする。
3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]設定をHUBの設定と同じ値に設定する。
4. [Intel(R) PRO/1000 EB Network Connection with I/O Accelerationのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

### ■ オプションのネットワークのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-111/119/120/112/121)を使用する場合について説明します。

「N8104-111/119/120/112/121」を使用する場合は、NEC差分モジュールに格納されているドライバをインストールしてください。

#### Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合

[N8104-111]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:\\$WINNT%\VISTAX64\TL3\PRO100\WINX64]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:\\$WINNT%\VISTAX64\TL3\PRO1000\WINX64]

### Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合

[N8104-111]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥VISTA¥TL3¥PRO100¥WIN32]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥VISTA¥TL3¥PRO1000¥WIN32]

### <オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

オプションボード用のネットワークドライバのインストール手順を次に示します。

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [Intel(R) PRO/1000~またはIntel(R) PRO/100~]をダブルクリックする。  
ダイアログボックスが表示されます。
3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。

[ドライバソフトウェアの更新 - Intel(R) PRO/(1000または100)~]が表示されます。

4. [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索する(R)]をクリックする。
5. 検索するソフトウェアの欄に、

### Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合

[N8104-111]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥VISTAX64¥TL3¥PRO100¥WINX64]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥VISTAX64¥TL3¥PRO1000¥WINX64]

### Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合

[N8104-111]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥VISTA¥TL3¥PRO100¥WIN32]

[N8104-112/119/120/121]のボード名のドライバ

[<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥VISTA¥TL3¥PRO1000¥WIN32]

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると、  
[ドライバソフトウェアが正常に更新されました。] 画面が表示されます。

6. [閉じる]をクリックする。
7. N8104-112/119/120を使用する場合、コマンドプロンプトにて下記のファイルを実行する。

### Windows Vista 64-bit(x64) Editionの場合

[<展開先フォルダ名>:

¥WINNT¥VISTAX64¥TL3¥REG¥WINX64¥E1G6032E.BAT]

### Windows Vista 32-bit(x86) Editionの場合

[<展開先フォルダ名>:

¥WINNT¥VISTA¥TL3¥REG¥WIN32¥E1G60I32.BAT]

コマンドプロンプトが戻りましたら、更新が完了しています。  
以上で完了です。

## ■ グラフィックスアクセラレータドライバ

『NEC8番街』 <http://nec8.com> よりダウンロードしてドライバをインストールしてください。

## ■ サウンドドライバ

標準装備のサウンドドライバは、システムのアップデートでインストールされます。システムの修復や再セットアップの際は、再度システムのアップデートを行ってください。

## ■ SCSIコントローラ (N8103-95) を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-95)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

## 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

### ■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。  
次の手順に従って設定します。

#### **重要** メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックする。  
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[システムとメンテナンス]をクリックする。

**ヒント** クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[システム]をクリックしてください。

3. [システム]をクリックする。  
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [システムの詳細設定]をクリックする。



5. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

**D:¥MEMORY.DMP**



**ヒント** Windows Vista 64-bit(x64) Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

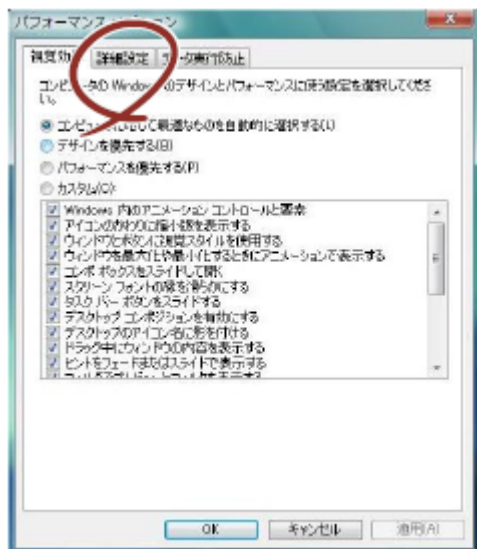
Windows Vista 32-bit(x86) Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上(メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+300MB 以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

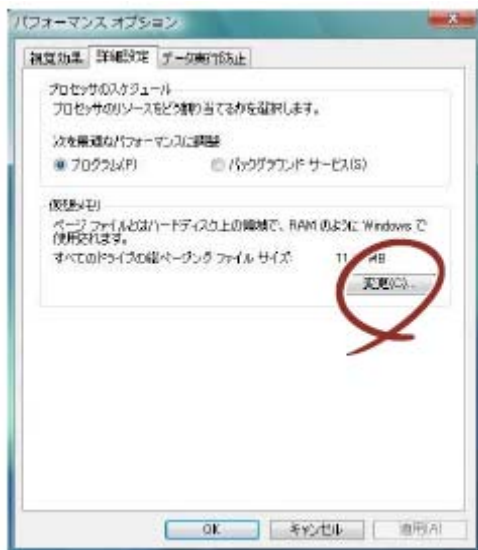
7. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。  
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



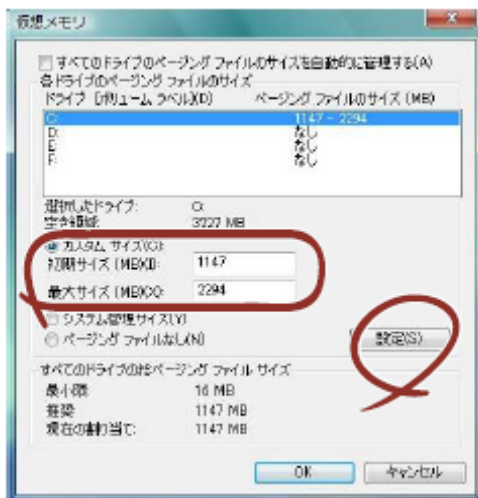
8. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



9. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



10. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に  
変更し、[設定]をクリックする。



**重要**

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、本書「注意事項」の「作成するパーティションサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

[OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。  
メッセージに従って再起動してください。

## ■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。

アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝えるポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. タスクバー上の空いている場所を右クリックして[タスク マネージャ]をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc>キーを押下して[タスク マネージャ]を起動します。
2. [プロセス]タブをクリックします。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプ ファイルの作成]をクリックします。
4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

**C:\%Users%(ユーザー名)%AppData%Local%Temp**

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記 4 のフォルダより取得してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法の詳細は、以下の Microsoft 社のサポート技術情報を参照してください。

### 「Windows Vista でユーザーモード プロセス ダンプを取得する方法」

<http://support.microsoft.com/kb/931673/ja>

**ヒント** Windows Vista Business では、ワトソン博士は [問題のレポートと解決策] に変更されており、従来のワトソン博士によるクラッシュダンプファイルを取得することができません。クラッシュダンプファイルと同等レベルの情報は、上記の方法で取得できます。



## ライセンス認証の手続き

Windows Vista をご使用いただくためには、Windows Vista のライセンス認証の手続きが必要です。ライセンス認証済みか確認し、必要であれば手続きを行ってください。ライセンス認証の手続きを次に示します。

1. スタートメニューから[検索の開始]に、次を入力し<Enter>キーを押す。

slui



### 重要

次のメッセージが表示されたら、ライセンス認証済みです。手続きの必要はありません。[閉じる]をクリックして終了してください。



2. 次のメッセージに従って、ライセンス認証の手続きを行う。



## トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Vista にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。



Windows Vista のインストールが終わったときに、以下のようなイベントログが登録されている場合がある

ソース : Microsoft-Windows-WMI  
 種類 : 警告  
 イベント ID : 63  
 説明 : プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→システム運用上、問題ありません。

ソース : Microsoft-Windows-Time-Service  
 種類 : 警告  
 イベント ID : 134  
 説明 : 'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。エラー: そのようなホストは不明です。(0x80072AF9)

→システム運用上、問題ありません。

ソース : PlugPlayManager  
 種類 : 警告  
 イベント ID : 263  
 説明 : サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

→システム運用上、問題ありません。

ソース : Microsoft-Windows-Dhcp-Client  
種類 : 警告  
イベント ID : 1003

説明 : ネットワークアドレスが001617818175のネットワークカードに対して、ネットワーク(DHCP サーバー) から割り当てられたアドレスを書き換えることができませんでした。次のエラーが発生しました:この操作はユーザーによって取り消されました。。ネットワークアドレス(DHCP) サーバーから引き続き、アドレスの取得を試みます。

→ システム運用上、問題ありません。

ソース : Microsoft-Windows-Search  
種類 : 警告  
イベント ID : 1008  
説明 : Windows Search Service では、古いカタログを削除しようとしています。

→定常的に発生していなければ システム運用上、問題ありません。

ソース : Microsoft-Windows-SpoolerSpoolss  
種類 : 警告  
イベント ID : 1036

説明 : InitializePrintProvider はプロバイダ inetpp.dll で失敗しました。このエラーは、システムが不安定になるか、またはシステムリソースが不足している場合に発生することがあります。

→ ネットワークに接続してください。  
有効なネットワーク接続が確認できず、初期化できなかった場合に登録されます。ネットワークに接続しておくことで、回避することができます。

ソース : Microsoft-Windows-Security-Licensing-SLC  
種類 : 警告  
イベント ID : 1054  
説明 : コンポーネント エラーです。hr=0x80049E00, [4, 3]

→システム運用上、問題ありません。

ソース : Microsoft-Windows-User Profiles Service  
 種類 : 警告  
 イベント ID : 1530  
 説明 : レジストリファイルは他のアプリケーションまたはサービスで使用されています。ファイルはすぐにアンロードされます。レジストリファイルを保持しているアプリケーションまたはサービスはこれ以降正しく機能しない可能性があります

→システム運用上、問題ありません。

ソース : Microsoft-Windows-Windows Defender  
 種類 : 警告  
 イベント ID : 3004  
 説明 : Windows Defender リアルタイム保護エージェントで、変更が検出されました。これらの変更を行ったソフトウェアに潜在的リスクがないか分析することをお勧めします。これらのプログラムの動作方法に関する情報を使用して、これらのプログラムの実行を許可するか、コンピュータから削除するかを選択できます。プログラムまたはソフトウェア発行者を信頼できる場合のみ、変更を許可してください。Windows Defender は許可された変更を元に戻せません。

→システム運用上、問題ありません。

ソース : VSS  
 種類 : エラー  
 イベント ID : 8194  
 説明 : ボリューム シャドウ コピー サービス エラー:  
 IVssWriterCallback インターフェイスを照会中に予期しないエラーが発生しました。hr = 0x80070005。このエラーは通常、ライターまたはリクエスタ プロセスのセキュリティの設定が正しくない場合に発生します。

→一定定期的に発生していなければ システム運用上、問題ありません。



Windows Vista で イベントビューアに下記内容の ACPI(イベント ID:6)のエラーが登録される

ソース : ACPI  
 種類 : エラー  
 イベント ID : 6  
 説明 : IRQARB: ACPI BIOS に PCI スロット 0、ファンクション 2 のデバイスの IRQ が含まれていません。  
 詳細はシステム ベンダにお問い合わせください。

→ デバイスマネージャに「！」マークが記録されていないければ、イベントビューアに ACPI(イベント ID:6)のエラーが登録されても、システム運用上問題ありません。